

ある暗鬱な春の、

苺少女に

平居 謙



先生
あたし今
屋台のお店で
イチゴのジュースとか売ってます

本当は
ごつごつした果実の皮を
ぎりぎり手で剥いて
お客さんの口に突っ込んでやりいし
とか思う時もあるけど
それでもメゲずに
リンゴジュースばかり売ってます

先生、
あたしイチゴジャムも売るんだよ
どろどろ溶けた
イチゴジャム
あんまり屋台では珍しいから
とっても珍しがって
お客さん買ってゆきます
でもね、
ジャム買っていくお客さん
あんまり嫌い

先生
今部屋でパイナップルラム
飲んでます
淫靡
っていう言葉最近よく使って
お前ホントに変なヤツだなって
カレシに不思議がラレテマスヨ

今度お部屋で
飲みたいなあ
って冗談、冗談
そんな冗談いうお客さんには
パイナップルの皮とヘタ(って言うのかな)
ごしごし擦り付けてやろうと
いつもそればかり思っています

「君の手紙を読んで、今年の春、桜が咲く頃に出会ったあまりにも暗い少女のことを先生は思い出しています」